

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第7週 (2月12～18日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b> (報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	187	1634
<b>[3類]</b>		
細菌性赤痢	1	7
腸管出血性大腸菌感染症	26	155
パラチフス		1
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	8	76
A型肝炎	2	11
エムポックス <sup>1)</sup>		7
回帰熱		1
重症熱性血小板減少症候群		3
つつが虫病	1	52
デング熱	2	19
日本紅斑熱		2
日本脳炎		1
マラリア		4
レジオネラ症	23	227
レプトスピラ症		1
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	9	61
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>	3	18
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	27	227
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>		3
急性脳炎 <sup>5)</sup>	9	88
クリプトスポリジウム症		1
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	22
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	33	338
後天性免疫不全症候群	13	129
ジアルジア症	1	3
侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	92
侵襲性髄膜炎菌感染症		6
侵襲性肺炎球菌感染症	44	417
水痘 (入院例に限る)	4	42
梅毒	143	1485
播種性クリプトコックス症		20
破傷風	2	9
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	19
百日咳	8	66
麻疹	1	1

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	101832	20.64
新型コロナウイルス感染症	49821	10.10
RSウイルス感染症	464	0.15
咽頭結膜熱	2851	0.91
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11534	3.68
感染性胃腸炎	17950	5.73
水痘	364	0.12
手足口病	532	0.17
伝染性紅斑	54	0.02
突発性発しん	591	0.19
ヘルパンギーナ	53	0.02
流行性耳下腺炎	90	0.03
急性出血性結膜炎	5	0.01
流行性角結膜炎	326	0.47
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	2	0.00
無菌性髄膜炎	4	0.01
マイコプラズマ肺炎	37	0.08
クラミジア肺炎 <sup>8)</sup>	2	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) <sup>9)</sup>	7	0.01
インフルエンザ (入院患者)	466	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	3150	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	福岡、大分、熊本
新型コロナウイルス感染症	↓	石川、茨城、岐阜
RSウイルス感染症	↑	北海道、福島、和歌山
咽頭結膜熱	↓	鹿児島、新潟、山形
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	鳥取、山形、北海道
感染性胃腸炎	↓	石川、大分、鹿児島
手足口病	↓	香川、山形、福井、宮崎
伝染性紅斑	↓	東京、香川、宮崎
ヘルパンギーナ	↓	山形、愛媛、高知、熊本
流行性耳下腺炎	↑	山梨、岩手、茨城、富山
マイコプラズマ肺炎	↓	沖縄、青森、静岡

### ◆西部ウマ脳炎：ウルグアイ

1月30日、ウルグアイの国際保健規制 (IHR) に基づく連絡窓口は、世界保健機関 (WHO) に対し、西部ウマ脳炎 (WEE) ウイルスのヒトへの感染例を通知した。患者は南部サン・ホセ県の農村部に住む42歳で、ウルグアイでは2009年以来、10年以上ぶりに報告されたヒト感染例。